

# 国際規格 ISO 22301 の現状と活用

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社  
ビジネスリスク本部

主任研究員 橋本幸曜

事業継続の分野においても継続的改善の仕組みを活用して、組織の力量と取り組み方を着実に向上させようというアプローチが存在する。それが事業継続マネジメントの考え方である。

事業継続マネジメント手法について、品質・環境分野と同じように標準化を図り、必須要件 (requirement) を明確化し、国際的な文書として整理した規格 (standard) が、ISO22301 である。ISO の規格は、主に要求仕様規格とガイドライン規格に分かれるが、要求仕様規格の場合、認証機関による認証制度の運用の対象となる。ISO22301 は認証規格に該当するため、実際に全世界で認証制度として運用されている。

そこで本稿では ISO22301 の特徴を簡単に整理した上で、その認証取得の状況、日本企業における活用のされ方、そして今後の動向などについて述べる。

## 特徴的な考え方を持つ ISO 規格

日本国内で出されている多くの事業継続に関するガイドライン類は、ISO22301 制定を取り巻く事業継続の国際標準化の動向を常に念頭に置きながら検討されてきた経緯がある。そのため ISO22301 における事業継続マネジメントについての考え方は日本国内では標準的なものように見えるが、実はそこで提唱されている事業継続マネジメント、そして事業継続計画の考え方には大

きな特徴がある。それは製品・サービスに注目した整理のあり方、そして目的思考の発想である。

ISO マネジメントシステムは、もともと 1987 年に発行された ISO9001 に始まる。その後 ISO9001 は何度か改訂され、検討の過程でいわゆる「PDCA サイクル」モデルが整理された。当初品質マネジメントのみで用いられていた PDCA モデルは他の改善管理にも汎用的に使えると認識され、例えば環境管理や情報セキュリティ管理等にも転用されるようになっていった。ただ、その際 PDCA サイクルの枠組みを独自に分離して整理するということは行われなかったため、徐々に ISO9001 は発行当初の品質に関するマネジメント手法についての規格という側面の他に、PDCA サイクルについての規格としての性質も帯びるようになった。このような背景から、事業継続マネジメントシステムも検討段階では ISO9001 を参考に PDCA サイクルモデルを模索した経緯がある。

一方で、ISO9001 では品質に関する要求事項と PDCA サイクルに関する要求事項が厳密に区別されているわけではないため、ISO9001 を参考に PDCA サイクルを整理した一連の規格には、多少ではあるがその品質に関する考え方の部分も反映されることとなった。事業継続マネジメントの場合も ISO9001 の影響を受けており、製品・サービスへの注目と、目的 (objective) から発想する思考方法となって表れている。